



宮城おおさき移住支援センター 愛称：CU:RUS くーらす

大崎市古川駅前大通 2-4-5-1 (建物1階)
☎ 25-4493 ☎ 25-5269
<http://osaki-ijyu-support.jp/>
毎週水曜日定休

◀日々「学び」の連続と話すスタッフの皆さん

大崎市が進める地方創生② つなぎ寄り添い移住を支援します

昨年9月19日、市では「宮城おおさき移住支援センター」を開設し、仙台圏や首都圏からの移住を推進しています。今回は、同センターについて、運営スタッフの皆さんからお話しをお聞きしました。

■大崎市へ目を向けてもらうきっかけづくり
待っている物事は動きませんので、積極的に東京や大阪など大都市圏で行われる「移住フェア」にエントリーし、大崎市の魅力や住みよさをPRしています。そのことがきっかけとなって、センターへ相談をいただいたり、大崎市へ足を運んでいただくことにつながっています。

■移住のニーズを探る
大自然の中で子育てがしたい。農業を始めたい。ものづくりをしたいなど、移住に関するニーズは多種多様です。

大崎高校生映像コンテスト2016

宮城おおさき移住支援センターでは、市内の高校に通う高校生を対象に、大崎市を離れた人が懐かしくなるような映像作品を募集しています。また、このコンテストに合わせ、映画監督の中島良氏による「映像ワークショップ」を8月9日(火)・10日(水)・17日(水)・18日(木)の4日間にわたり開催します。申し込みなど詳しくは、宮城おおさき移住支援センターのウェブサイトをご参照ください。



▲7月16日に開催した「おおさき農業ライフツアー」に仙台圏から10人が参加し、岩出山地域の生産者と一緒に農作業を体験

■不安を取り除くため
多くの移住希望者は、家や仕事、学校のことなどの移住前の不安と、近所付き合いなどの移住後の不安を抱えています。そんな気持ちを少しでもお返しに、皆さんのご協力を

■空き家バンクの登録を
市内に空き家をお持ちの皆さんに登録していただき、移住希望者に紹介する「空き家バンク」制度があります。空き家の有効活用を通して、市民と都市住民との交流を拡大し、定住促進による地域の活性化を図ります。空き家情報の提供に、皆さんのご協力を

で、大崎市のさまざまな面を知っていただくために、地元の人との交流も含めた各種「移住体験ツアー」も開催しています。地元の人たちの温かさが伝わり、移住希望者の心の扉が開き始めることを実感しています。

もやわらげるため、わたしたちは何度でも相談をお受けし、必要な情報を提供してきました。また、歳月をかけて築かれてきた地域のコミュニティでは、見知らぬ人が移住してくることに不安を感じる方がありますので、移住前に地域の皆さんと移住希望者がつながる機会を設けるなど、地域にとっても、よい移住になることを心掛けています。

10 year story 年物語

～おおさき人の軌跡～

10年を振り返り 新たな10年へ歩みだす



フランク永井歌コンクール実行委員会
委員長 畑中 敏亮 さん

活動の概要

松山まちづくり協議会教育文化部会での地域課題の掘り起しがきっかけとなり事業がスタート。第8回目となる今回は、松山体育館を会場に、10月15日(土)に予選、16日(日)に決勝大会が行われる。8月末まで出場希望者を募集中。詳しくは、ウェブサイト「フランク永井の故郷から」を参照 <http://frank-m.org/>

郷土の誇りを伝え続けていきたい ～フランク永井歌コンクール実行委員会～

大崎市誕生直後、松山地域が埋没することに危機感を覚えました。地域の知名度を上げたい。発信したい。そんな思いで、ワークショップや話し合いを重ねました。フランク永井さんは、松山地域出身の昭和を代表する魅惑の低音歌手として、今なお根強いファンがいます。松山地域の誇りであり宝です。

フランク永井さんの歌を後世に伝え、歌い継いでいくこと、そして、松山地域を広く発信していくことを目的に、フランク永井歌



昨年の第7回大会の様子

催しました。実行委員会を組織しましたが、興行はまったくの素人で、運営資金の調達、会場の確保、集客方法、音響、照明、審査方法など、知らないことばかりでした。会場が狭い、寒い、音響効果が悪いと、問題も少なからず発生しましたが、その都度、反省を教訓に換えながら、回を重ねてきました。

第2回までは、市の地域自治組織活性化事業交付金を活用しましたが、それ以降は、地域の皆さんからの協賛をいただき、賞品はすべて地場産品を使用。毎回、延べ150人以上の地域のボランティアによって、あたたかみのある事業運営を行っています。

今後も、出場者または運営側として、もっと若い世代が関わり、郷土の誇りを伝え続けられるよう輪を広げていきたいですね。

古川の歴史や文化を生かしたまちづくり ～みちのく古川食の蔵 醸室(かむろ)～

緒絶川のほとり、造り酒屋から漂うお酒の香りや大きな樽を干す風景は、わたしが幼いころ目にした古川の原風景です。

平成14年ごろに、商店主の仲間たちと、未来の古川のことや互いの夢を語り合う中で、すでに使われなくなっていた造り酒屋周辺の風景が失われてしまうのは、非常にもったいないという話しになり、当時の古川市や商工会議所など関係機関との間で、話し合いを重ねました。

その結果、古川の歴史・文化を後世に伝え、中心市街地活性化の核として、まちづく



醸室夏まつりビアガーデンの様子

りの輪を広げていくことを目的に、200年続いた造り酒屋の、蔵のある佇まいを生かした地域振興施設、食の蔵「醸室」が、平成17年に誕生しました。

この10年、テナント数の減少、岩手・宮城内陸地震、東日本大震災によって、経営の存続にかかわる大きなピンチが何度もありましたが、醸室を残そうという市民の声や、行政の支援があって、なんとか今も復興に向けて努力を続けています。

震災後、醸室の人出は少しずつ回復してきましたが、わたしたちが当初掲げた「中心市街地へのにぎわいの広がり」は、まだまだ足りていませんので、近隣商店街との連携を模索していきたいと思っています。また、古川地域ばかりでなく、鳴子温泉をはじめとする他地域との連携を一層深め、大崎市の観光発信基地としての機能も充実させていきたいと考えています。



株式会社 醸室
代表取締役社長 菊地 大樹さん

活動の概要

平成14年3月18日、中心市街地活性化事業を実施するまちづくり会社として設立。平成17年5月14日、食をテーマに歴史ある造り酒屋を利活用した中心市街地の核となる施設「醸室」をオープン。現在は、季節ごとに毎回趣向を凝らして行われるまつり企画が、多くの人を引き寄せている。